

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372400248		
法人名	医療法人 宏友会		
事業所名	グループホーム元気村Ⅱ		
所在地	半田市浜田町3-10-5		
自己評価作成日	平成23年1月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在の場所へ移転以降、アセスメントやケアプランの策定・評価には、十分に力をいれている。アセスメントでは、センター方式を用いアセスメントチーム(4名)からあらゆる角度で利用者様の立場に立ったプランを作れるようにしており、半年に一度の見直し、評価では一ヶ月毎に定期的に取り組み、柔軟な対応ができるようにしている。6ヶ月に一度家族懇談会を開き、利用者様とご家族またはご家族同士に交流の機会を設けている。2ヶ月毎の運営推進会議では、離脱に対する近隣協力や看取り介護についてなどを議題に開かれた施設を目指している。基本的な介護面としては、3大介護を重点的に行っている。排泄では、一人ひとりに合わせた誘導・介助方法で対応し、入浴では機械浴日と一般浴日と隔日に設けている。食事は、食事形態も柔軟に対応できるなど一人ひとりの利用者様に合った方法で、個別的に取り組んでいる。工業地帯という立地条件ではあるが、隣のショッピングセンターを活かし、散歩しつつ買い物に出掛けられる特色も出せている。その人らしい生活をしていただけるよう、その人のペースを大切に、理解して思いを共有できる様に行動をなるべく束縛せず、自由に過ごしてもらえよう日々職員同士、上司と話し合いながら取り組んでいる。本年は同法人内ではあるが、合同の食事ににより新たな人間関係にもチャレンジした

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりがが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・周りが住宅街でないのになかなか地域密着とはいかないが、出来る限り周りの施設(スーパーなど)理解してもらえている ・事業所理念はよく見える場所に掲示されている ・諳んじることができる ・あまり実践につなげていない点もある 		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的にはなかなか交流できないが運営推進会議などを通じてつながりを保っていけるよう努めている ・近くのスーパーを利用してはいるが、商工業地域であるため地域との交流は難しい ・地域の保育園などと交流が生まれ始めたが、日常的にということまではほど遠い 		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろ勉強会をしたり、家族や地域の人や招いて行うようにしている ・家族会、連絡物などにより入居の方々への施設としての対応や認識を深めていただけるように努力している。地域への働き掛けは十分ではない ・運営推進会議にて離設について一度協力を求めた 		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にいろいろな面から意見をいただき、日々の利用者様や家族の方へのサービスに生かしていると思う ・質疑応答の時間を設けている 		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議に市の介護保険課の方を招いたり、日々何かあると連絡を取るようになっている ・一般職員ではそのような機会もあまりないが、責任者は行っていると思う 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・エレベーターで下に降りれるようになっている ・また、身体拘束はつなぎ、柵など含めしないようにしている ・ミーティングにて身体拘束研修を行い、理念を学び職員共通の認識を持つことができた。また一般論ではなく職場での個別の事例を検討し実践に即つなげることができた ・施設の構造上、危険の生じやすい、会談につながる出入り口には施錠を日常的に行っている 		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・常に身体に傷やあざなどないか確認し、注意している、発見された際には記録として残している ・何が虐待になるか、正しい理解をし、利用者様の様子に常に注意を払い、防止に努めるよう心掛けている 		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所全体で勉強し、必要ならば関係者に相談し多方面で支援していくようにしている ・制度の理解は個人レベルで研修に参加したりした。対象者について、その支援方法などは職員としてあまり話し合う機会はないように思う ・職員は学ぶ機会はないが、責任者が支援していると思う 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・常々利用者様、ご家族の方が交流を図りその時々のお気持ちや不安を解決していくようにしている ・責任者がご本人、ご家族に十分な説明を行い理解と納得を得ている 		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の運営に活かせるように意見を取り入れていくようにしている ・要望・苦情窓口を入口掲示板に明示している ・「ご家族連絡ノート」を設け、ご家族の希望や要望等を職員で共有している ・日常的にもご家族、利用者様とコミュニケーションをはかり、意見を出していただき、日常の業務などに活かせるように考えている 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に個人的、ミーティング等で提案し改善していくようにしている 責任者との個人面談を通じ、意見や希望を伝える機会を得た 日常においては責任者宛てのノートを常備している 定期的に面談という形で一対一で話す機会もある 		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 出来る限り、環境や条件を聞いてくれ、職員がやりがいや喜びを感じられるようにしてあげる 勤務シフトに個別の要件を反映されている サービス残業等もない 半年ごとに個人別計画書の提出義務があり、これらによって個々の働きを査定していると思う 		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> 研修や講習会などなるべく参加できるようにし、日々のケアの向上をしていくようにしている 二か月に一度の法人研修、毎月のミーティング内研修を行っている 法人研修の情報が提供されている 法人内外の研修を定期的に関き、参加を呼び掛けている。この事業所においても今年度は研修が独自に計画され、実行されている 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> あまり他の事業所との交流はする機会はないが研修などを通じて情報交換している 法人内の他施設との交流はあるが、外部との交流は少ない 研修という形で職員でも参加する機会のある者はいると思う 		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> 常々要望など言える関係、それを解決していくように努めている 責任者においてなされるはずである。サービス導入時点で職員がかかわることはほとんどないと思う 利用者様とゆっくり話せる時間を設け要望など理解しながら、家族やケアマネ、基本情報等を参考にしている 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族が定期的に来所していただけるようにし、ケアプランの作成するときなどご家族から話をさせていただくようにしている ・各利用者様に担当職員を割り当て、アセスメントやケアプラン作成時にご家族の要望をうかがい反映させている 		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・その時々に応じて要望や状態により日々のサービスの見直しをしていくようにしている 		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなお手伝いやお話をさせていただく上で敬い、信頼できるような関係を築けるように努めて得る ・ご本人の能力や適性に合った仕事(皿拭き、洗濯物たたみなど)をさせていただく ・その都度意向を確認しながら、一方的な介護にならないように努めている 		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族にも協力をお願いしたり、何かあったら連絡、報告しながらご家族と利用者様の絆が途絶えないようにしている ・ご家族の希望を利用者様の生活に活かし、利用者様のニーズをご家族に伝えるパイプ役となるよう努めている 		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・お友達など気軽に来所していただくようにしている ・外出行事の際、ご自宅や昔馴染みの場所(畑、地元の銭湯など)に行って頂いた ・家族の協力、理解がある場合において可能でそういう機会を大切にしたいと思っている 		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・席やレクなどを通じて交流を図れるように努め利用者様が仲良くできるようにしている ・お話の合う方同士で近くに席をとっていただいたり、各所にソファを配置したりし、会話のできる環境を作っている 職員も話の仲立ちに努めている ・利用者様の状態を把握し、職員間で問題のあるときは話し合いよりよい人間関係が気づけるような支援に努めている 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・なかなかお会いできる機会は少ないが、責任者を通じその後の状況を聴き手相談できるようにしている ・必要があり、家族から要望があれば、行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・コミュニケーションを常に図り希望や意向をうかがい話しやすいように心がけている ・意思疎通の難しい利用者様のご家族にご本人の好みや昔の話を伺い生活に反映するよう努め散る アセスメントにも目を通してしている ・入所時そこに至るまでの間にも把握に努めていると思う		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・なるべく入所してから馴染みの物を持っていただき安心して穏やかに生活できるようにしている ・各利用者様の担当職員がアセスメントを作成し、生活歴の情報を収集している また、職員はいつでもアセスメント情報を閲覧できる ・基本情報、ご家族、ケアマネの情報や本人との会話等で把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・常に心身の状態を観て、その方に合った生活ができるようにしている ・心身時の状態、能力に変化があれば、マンスリーに反映させている ・マンスリーは全員が目を通し把握することができるよう閲覧チェックをしている ・日々の業務の中で気付きなど、朝夕の申し送りなどで細かく報告、必要があれば方向性の検討を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・家族会や運営推進会議や日々で意見を言っ頂き希望に応じられるようなケアプラン作成する ・ケアプランに「ご本人の希望」「ご家族の希望」欄を設け要望をうかがっている ・半年に一度ケアプランの見直しを行い、毎月マンスリーにより見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・常に連絡ノート、日誌、ミーティングなどで報連相を徹底して行うようにしている ・日勤、夜勤帯の担当職員が時間内の利用者様の様子をその日のうちにカルテに記録し、申し送りで共有している ・個人ファイルを作成し、日々の様子や基本情報等個別に管理している 		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・その時々状況や状態に応じてサービスをよりよいものにしていくように職員間で話し合いながら行っている ・同じ建物内に整形外科があり、状況に応じて利用可能 		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホーム内にいるので地域の方々と接するの場難しいが外出しているんな方と接したり、保育園などにも行ってコミュニケーションを図っている ・市のボランティアを招いて、行事を行った ・時々買い物に行ったり、近くを散歩しながら花見や紅葉を楽しんでいる 		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・週に一度往診をしていただき、その時々体調や変化を観ていただく 薬や検査等もしている ・ご家族の必要に応じ、往診に同席していただくことがあった。往診医から直接説明してもらうことでご家族の不安を減らすことができたと思う ・往診医のほかに関連医療機関、利用者本人のかかりつけ医など幅広く、医療が受けられるよう支援している 		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内の整形外科があるので何かあれば診ていただき、看護など設けられている。また何か内科的なことは看護師に連絡し、指示を受けている ・利用者様の変化を看護師に伝え、24時間いつでも指示を仰ぐことができる 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入退院時病院に伺い、何か連絡したりお見舞いに行き様子や状態を見に行っている ・法人内の医療機関であれば密に情報交換できるが外部の医療機関での情報はもっぱら家族に依存している ・退院時、サマリーなどにより情報を得ている 		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・常日頃よりご家族の意向をお聞きし、またそのような状態時も連絡と密にとるようにしている ・ターミナルに関する研修、情報共有を密に行い身近なものにとらえられるようになった。 ・ご家族、医療関係者との協調も模索しながらも取れていると思う ・早くから終末期の在り方について家族に希望を定期的にとっている。往診医などの判断によりその段階に入った利用者様については家族との連絡も密に行い備えるようにしている 		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・市の救命講習に行ったり、勉強会をしたりして緊急時に備えている ・心肺蘇生訓練(外部)への参加を勧められ、個人で参加した ・急変時のマニュアルは作成されている 		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・地震時火災時の避難訓練を毎年行っている ・夜間帯、日勤帯それぞれを想定した避難訓練を行った ・消防署と連携した訓練も予定されている ・非常食も準備されている 		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・その方の今までの生活や考え方を否定せず常に共有し、理解し受容していくように対応している ・個人で努めているが職員によりムラもある また排泄について大きな声で伺ってしまうこともあり、改善に努めたい 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の人数や時間的制限が許す限り思いや希望を聞いていくようにしている ・傾聴を心掛けてはいるものの、疎通が難しかったり決定を職員にゆだねられたりされ、難しいことも多い、努力を続けたい 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・その人その人の生活ペースを考えていくようにしているが職員の人数もある中希望に添えない時もある ・全体のペースに合わせて頂くことが多い ・細かい部分ではここへのそれぞれの対応に心掛けているところもある 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の洋服を選べれる方は希望をお聞きしている ・毎日整容を行っている また、お化粧品をして外出をする機会を設けた。背丈の低い利用者様に合った鏡が施設内にない ・必要に応じて出張の美容院のサービスの利用も始まっている 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食器拭き、片付け、お料理など手伝って頂いている ・買い物に同行していただき、好きな飲み物やおやつを選んで頂くことがある。食事の準備やおやつ作りに参加していただくことがある ・週に一度のおやつ作りをしているが一部の方に限られ、職員主導の感が強い 		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事量・水分量をチェックしその方が食べやすい形状にしている ・食事を嫌われる方に経腸栄養剤を召し上がっていただき、状態維持に努めた。 ・一部の方を除きバランス良く摂取できている。一部の方にはバランスの保持に努めている 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後一人ひとりの状態に応じて口腔ケアをし、週一回洗浄をしている ・口腔ケアは習慣化しており、チェック表に記載もしている 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な声かけし、一人ひとりその方に合わせて自立できるよう夜間も含めて支援している 立位のとれない方以外は皆さまハビリパンツ、布パンツを使用されている 		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 牛乳などの乳製品や食物繊維などなるべく摂っていただくようにする トイレに座って腹圧やマッサージをしている 補助的に便秘薬を使用している おむつの方でも必要に応じてポータブル等に座っていただくなどの配慮もしている 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> なかなか職員の勤務上夜間に入浴は難しいが利用者様が拒否などあれば時間をずらすなどしている 曜日、時間帯は決まっている。一番風呂が好きな方、清潔に執着のある方は希望に沿って早めに入らせていただいている 		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 日中を活動的に過ごしていただけるように体操やレクリエーションを行って頂き、夜間の良眠につなげている 自室で自分のタイミングで休息できる方は限られている 生活習慣に応じて床対応もしている 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 往診時の薬の変更を確認出来る様にファイルが作られている 薬についての疑問があるときは看護師に確認している 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> レクやいろんな時間をそれぞれテレビや趣味や部屋にいたり好きなように過ごしていただいている 家事仕事をお願いしている。また梅干作りや野菜の栽培など利用者様に教わりながら行った 一人ひとりの能力に合った頼みごとをしてやりがいを持っていただけるようにしている 感謝の気持ちも伝えるようにしている 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・なかなかその日の希望をその日にお聞きしてお連れするのは無理だが、機会があればお連れするようにしている ・車がなく交通量の多い通りに面した商工業地域であるため、自由な外出は難しい 行事として各利用者様の好きな場所を訪ねる外出を行った ・スペシャルdayには一人ひとりの希望がかなえられるよう職員と一対一で支援を行っている 		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・現金管理は職員が行っているが買い物や外出等は希望に応じていくようにしている ・お金を使うことはほぼない ・一部の方においては自己にてお小遣い程度所持している 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人の希望に合わせていつでも電話と取り次いだり、かけていただいている 		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・なるべく家庭的な雰囲気や季節感が出るようにしている ・安全に配慮し、居心地の良い空間となるよう考慮している。 ・居室については馴染みの物が持ち込まれている部屋もある 		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・なるべく共有リビングでは午前中みんなでレクリエーション、午後は各自が好きなように過ごせるようにしている ・各所にソファを置いている 		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・なるべくご家族より使いなれた家具や装飾品などを持ってきていただき居住空間を使えるようにしている ・居室の空間作りはご家族にほぼ依存している。利用者様の状態によっては居室環境づくりが難しく、殺風景になることもあり、改善が望まれる ・居室にTVを持ち込んでいる方も見える 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人の身体的体力的に出来ることを無理のないようにしてお手伝いしたださっている ・時計や大きなカレンダーを設け、利用者様が日時を把握して行動できるようにしている ・トイレなどわかりやすい表示でドアが閉まってもわかるようにしてある 		